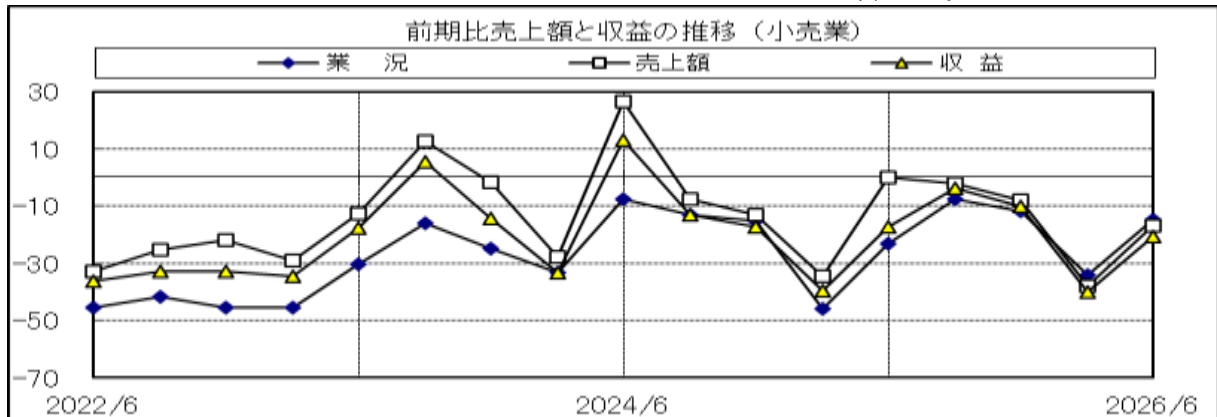


小 売 業 48 企業（回答率 100%）の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 実 績	4～6 月期 実 績	7～9 月 期見通し
業 況	-12.0	-34.0	-14.6	-31.3
売上額	-8.0	-38.0	-16.7	-27.1
収 益	-10.0	-40.0	-20.8	-29.2

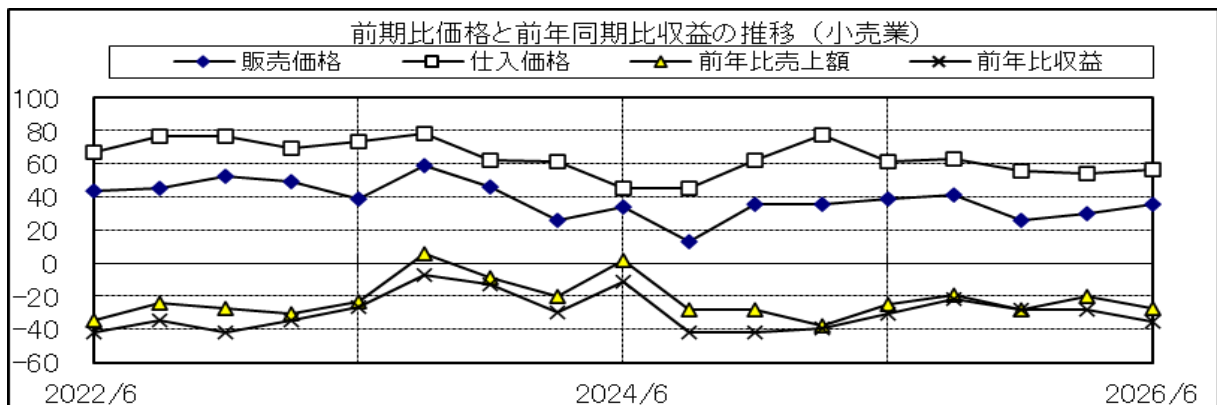
今期の業況判断 D.I. は△14.6 で、前期比 19.4 ポイント上昇、前年(△23.1)比で 8.5 ポイント上昇した。地区別の D.I. は高い順に、えりもが最も高く、次に、静内、広尾、様似、三石と続き、浦河が最も低い水準となった。売上額判断 D.I. は△16.7 で、前期比 21.3 ポイント上昇。収益判断 D.I. は△20.8 で、前期比 19.2 ポイント上昇した。



□ 価格面の動き・前年同期と比べた動き

DI 値 の推移	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期見通し
販売価格	26.0	30.0	35.4	29.2
仕入価格	56.0	54.0	56.3	47.9

販売価格判断 D.I. は 35.4 で、前期比 5.4 ポイント上昇、前年(38.5)比で 3.1 ポイント下降した。仕入価格判断 D.I. は 56.3 で前期比 2.3 ポイント上昇、前年(61.5)比で 5.2 ポイント下降した。業種別では、衣料、食料、家電の販売価格、仕入価格はともに横ばいとなった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12 月 期 実 績	1～3 月 期 実 績	4～6 月 期 実 績	7～9 月 期見通し
残業時間	-6.0	-8.0	-2.1	0.0
人手状況	-24.0	-28.0	-25.0	-20.8

残業時間判断 D.I. は△2.1 で、前期比 5.9 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D.I. は△25.0 で、前期比 3.0 ポイント上昇し、人手不足感は弱まった。

□ 設備投資の動き

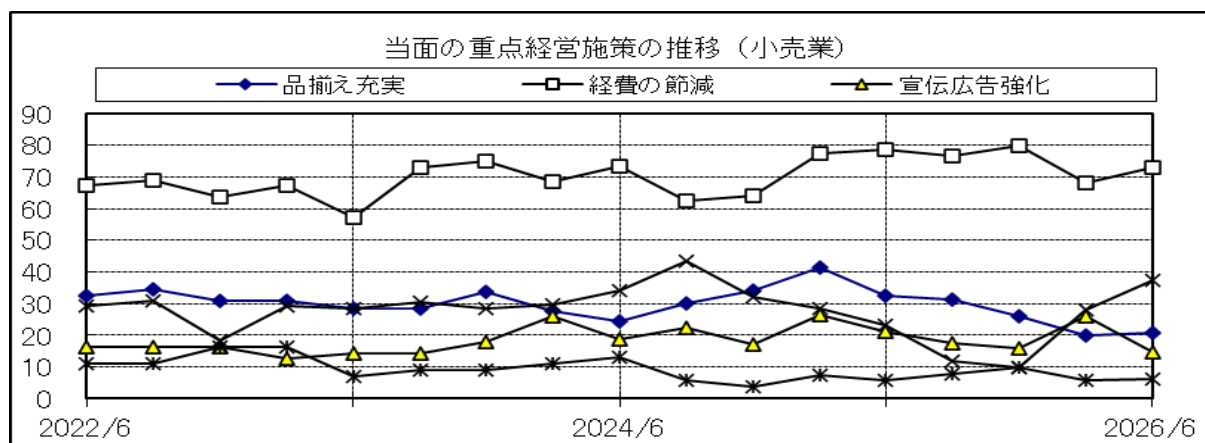
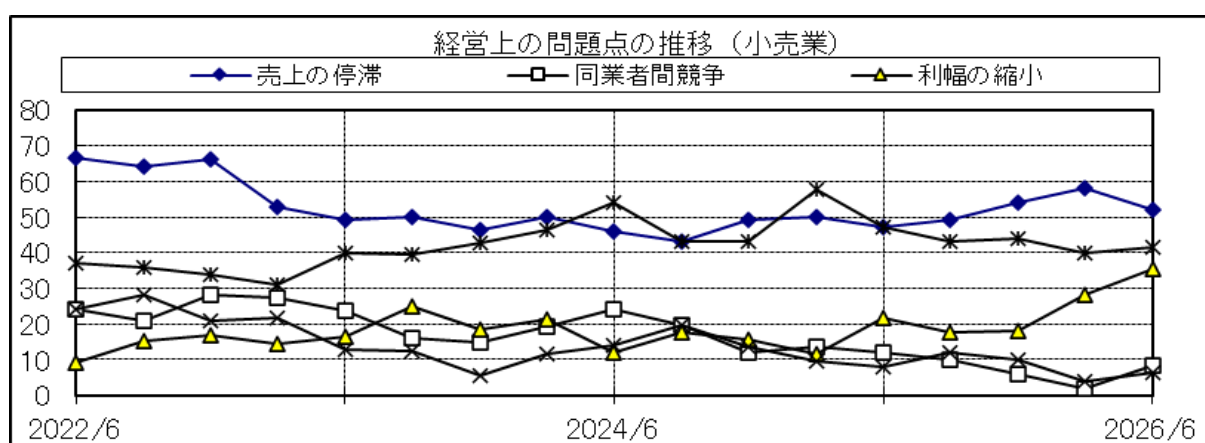
設備投資の充足感を示すD.I.は△16.7で、前期(△6.0)比10.7ポイント下降した。

設備実施企業割合は8.3で、前期(4.0)比4.3ポイント上昇した。設備投資は、前期2社に対し4社の実施となった。来期の設備投資は、2社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上停滞減少」が52.1%と最も多く、次に「商圈人口減少」41.7%、「利幅縮小」35.4%、「値上要請」25.0%、「取引先減少」16.7%、「人件費増加」・「商店街集客力低下」が14.6%、「地場産業衰退」12.5%、「人手不足」・「販売商品不足」が10.4%、「同業者競合」・「諸経費増加」が8.3%、「大型店競合」6.3%、「取扱商品陳腐化」・「店舗狭隘老朽化」が4.2%、「代金回収悪化」2.1%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が72.9%と最も多く、次に「売れ筋商品取扱い」37.5%、「品揃え改善」20.8%、「宣伝広告強化」14.6%、「人材確保」12.5%、「仕入先開拓選別」10.4%、「新事業開始」・「商店街活性化」が6.3%、「店舗設備改装」・「機械化促進」・「パート化」・「不動産有効活用」が2.1%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は△31.3と、今期比16.7ポイントの下降を見通している。

予想売上額判断D.I.は△27.1と、今期比10.4ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D.I.は△29.2と、今期比8.4ポイントの下降を見通している。

予想販売価格判断D.I.は29.2と、今期比6.2ポイントの下降を見通している。

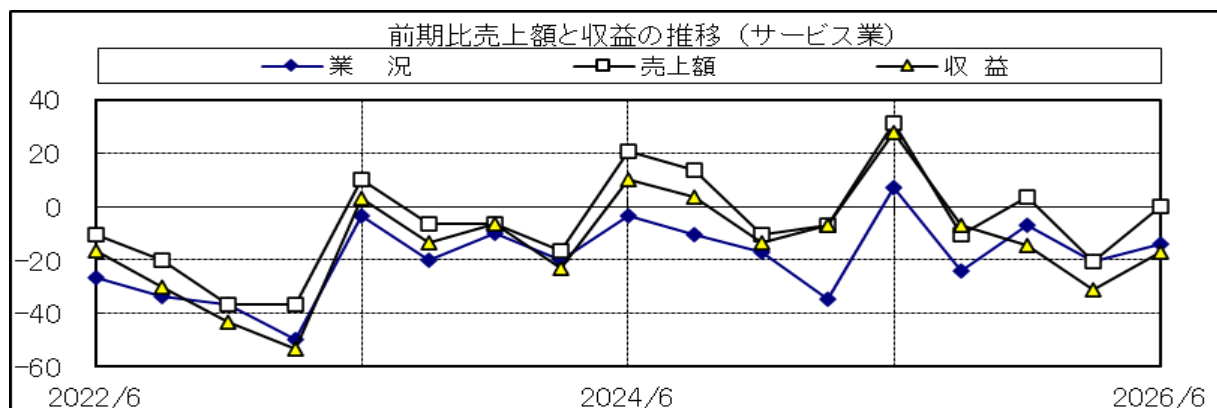
予想仕入価格判断D.I.は47.9と、今期比8.4ポイントの下降を見通している。

サービス業 29 企業（回答率 96.6%）の調査結果です

□ 概 況

DI 値 の推移	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期見通し
業 況	-7.1	-20.7	-13.8	-13.8
売上額	3.6	-20.7	0.0	-3.4
収 益	-14.3	-31.0	-17.2	-17.2

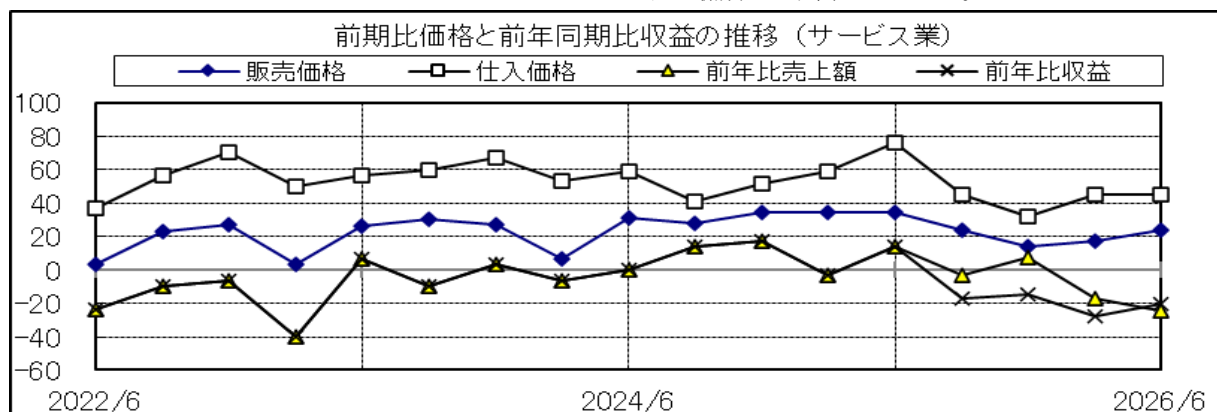
今期の業況判断 D.I. は△13.8 で、前期比 6.9 ポイント上昇、前年(6.9)比で 20.7 ポイント下降した。地区別の D.I. は高い順に、三石が最も高く、次に、同率でえりも・広尾、同率で浦河・静内と続き、様似が最も低い水準となった。売上額判断 D.I. は 0.0 で、前期比 20.7 ポイント上昇。収益判断 D.I. は△17.2 で、前期比 13.8 ポイント上昇した。



□ 価格面の動きと前年同期に比した動き

DI 値 の推移	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期見通し
料金価格	14.3	17.2	24.1	17.2
材料価格	32.1	44.8	44.8	37.9

料金価格判断 D.I. は 24.1 で、前期比 6.9 ポイント上昇、前年(34.5)比で 10.4 ポイント下降した。材料価格判断 D.I. は 44.8 で、前期と同水準となり、前年(79.3)比で 34.5 ポイント下降した。業種別では、料金価格は旅館業、洗濯理容業、自動車整備業は横ばい。材料価格は、旅館業、洗濯理容業は横ばい、自動車整備業は下降となった。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	10～12 月 期実績	1～3 月 期実績	4～6 月 期実績	7～9 月 期見通し
残業時間	0.0	-24.1	-13.8	-13.8
人手状況	-35.7	-31.0	-37.9	-31.0

残業時間判断 D.I. は△13.8 で、前期比 10.3 ポイント上昇し、残業時間が増加したとする企業割合が増えた。

人手過不足判断 D.I. は△37.9 で、前期比 6.9 ポイント下降し、人手不足感は強まった。

□ 設備投資の動き

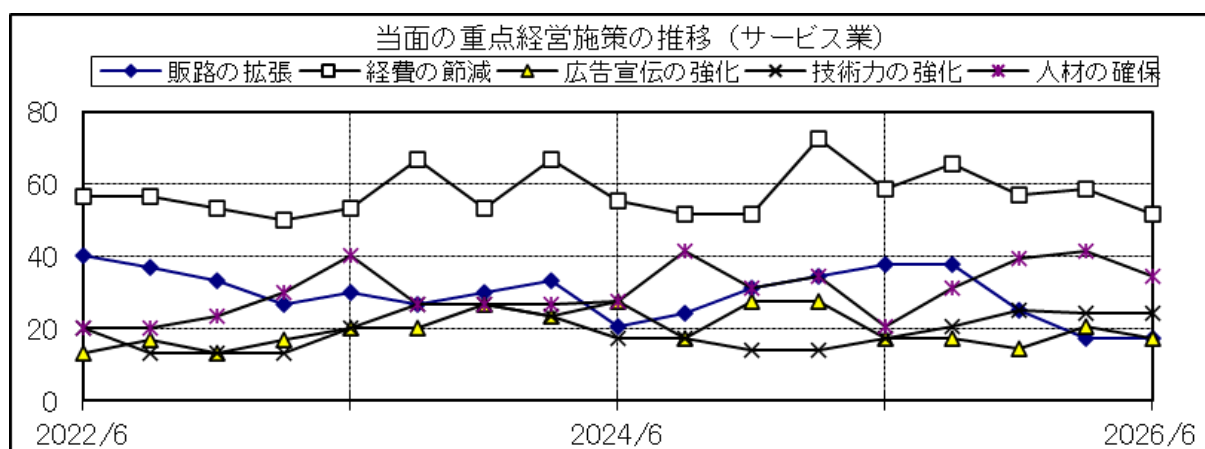
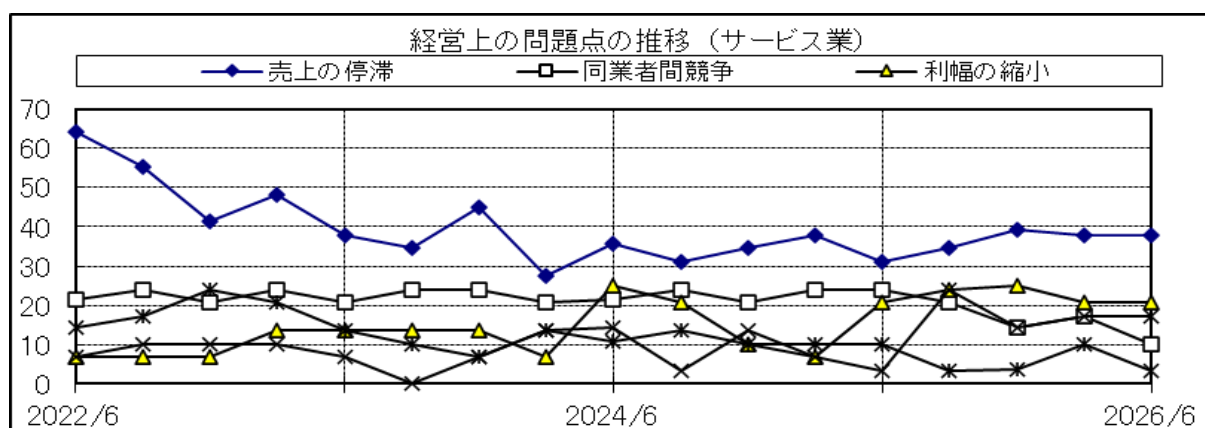
設備投資の充足感を示すD.I.は△10.3で、前期（△6.9）比3.4ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は10.3で、前期（13.8）比3.5ポイント下降した。設備投資は、前期4社に対し、3社の実施となった。来期の設備投資は、3社の予定となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「商圈人口減少」が48.3%と最も多く、次に「材料価格上昇」が41.4%、「売上停滞減少」37.9%、「人手不足」31.0%、「利幅縮小」20.7%、「人件費増加」17.2%、「同業者競争」・「取引先減少」が10.3%、「技術力不足」・「店舗設備老朽化」が6.9%、「大手企業競争」・「代金回収悪化」・「天候不順」・「地場産業衰退」が3.4%となっている。

重点経営施策では、「経費節減」が51.7%と最も多く、次に「人材確保」が34.5%、「技術力強化」24.1%、「販路拡大」・「宣伝広告強化」17.2%、「提携先確保」10.3%、「店舗設備改善」・「機械化促進」・「教育訓練強化」が6.9%、「新事業開始」3.4%となっている。



□ 来期の見通し

来期の予想業況判断D.I.は△13.8と、今期と同水準を見通している。

予想売上額判断D.I.は△3.4と、今期比3.4ポイントの下降を見通している。

予想収益判断D.I.は△17.2と、今期と同水準を見通している。

予想料金価格判断D.I.は17.2と、今期比6.9ポイントの下降を見通している。

予想材料価格判断D.I.は37.9と、今期比6.9ポイントの下降を見通している。